

現 行	改 正	備 考
<p data-bbox="311 667 1092 835">空港土木施設設計要領 (施設設計編)</p> <p data-bbox="439 1451 973 1577">平成31年4月 (令和3年4月一部改訂)</p> <p data-bbox="409 1755 1003 1812">国土交通省航空局</p>	<p data-bbox="1448 667 2228 835">空港土木施設設計要領 (施設設計編)</p> <p data-bbox="1567 1451 2101 1577">平成31年4月 (令和4年4月一部改正)</p> <p data-bbox="1537 1755 2131 1812">国土交通省航空局</p>	<p data-bbox="2412 289 2591 317">資料1-1-1</p> <p data-bbox="2412 1518 2576 1545">改正日を更新</p>

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

目 次	目 次	
<p>空港土木施設設計要領（施設設計編）</p> <p>第1章 省略</p> <p>第2章 省略</p> <p>第3章 省略</p> <p>第4章 省略</p> <p>付録 付録-1～10 省略</p> <p>参考文献</p>	<p>空港土木施設設計要領（施設設計編）</p> <p>第1章 省略</p> <p>第2章 省略</p> <p>第3章 省略</p> <p>第4章 省略</p> <p>付録 付録-1～10 省略</p> <p>参考文献</p> <p>設計例等</p> <p>例-1 空港場内及び空港場外の排水計画例・・・・・・・・・・例- 1</p> <p>例-2 着陸帯内の表面排水溝の設計例・・・・・・・・・・例- 6</p> <p>例-3 盛土内及び法面の排水設計上の留意点と対策例・・・・・・・・例- 9</p> <p>例-4 洪水調節容量の決定に係る降雨波形の設定例・・・・・・・・例-13</p>	設計例を追加

<p>第3章 空港の施設</p> <p>3.14 飛行場標識施設</p> <p>3.14.6 エプロン標識</p> <p>【基準】</p> <p>省略</p> <p>【解説】</p> <p>(1) エプロン標識の種類とその配置例を図-0.1に示す。</p> <p>図-0.1 自走式のエプロン標識の例</p>	<p>第3章 空港の施設</p> <p>3.14 飛行場標識施設</p> <p>3.14.6 エプロン標識</p> <p>【基準】</p> <p>省略</p> <p>【解説】</p> <p>(1) エプロン標識の種類とその配置例を図-0.1に示す。</p> <p>図-0.1 自走式のエプロン標識の例</p>	
--	--	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

(2) 駐機方式に応じて設置するエプロン標識の例を表-0.1に示す。

表-0.1 駐機方式に応じて設置するエプロン標識の例

駐機方式		ノーズイン・トーイング方式		自走式
ボーディングブリッジ		あり	なし	なし
ガイドライン	導入線	○	○	○
	旋回線	—	—	○
	導出線	—	—	△
バー	停止バー	○	○	○
	旋回バー	—	—	○
	正対バー	—	—	△
スポット表示番号		△	△	△

(注) ○……………必要
△……………ケースによって必要

(3) エプロン標識の設置にあたっては、関係者と十分協議する必要がある。

【要領】

エプロン標識の設置にあたり、関係者と協議する事項には、ガイドラインの位置及び形状、停止バー等の位置、スポット表示番号の数字等がある。

(2) 駐機方式に応じて設置するエプロン標識の例を表-0.1に示す。

表-0.1 駐機方式に応じて設置するエプロン標識の例

駐機方式		ノーズイン・トーイング方式		自走式
ボーディングブリッジ		あり	なし	なし
ガイドライン	導入線	○	○	○
	旋回線	—	—	○
	導出線	—	—	△
バー	停止バー	○	○	○
	旋回バー	—	—	○
	正対バー	—	—	△
スポット表示番号		△	△	△

(注) ○……………必要
△……………ケースによって必要

(3) エプロン標識の設置にあたっては、関係者と十分協議する必要がある。

【要領】

エプロン標識の設置にあたり、関係者と協議する事項には、ガイドラインの位置及び形状、停止バー等の位置、スポット表示番号の数字等がある。

なお、スポット表示番号は、誤進入防止等の観点から連続性を持たせた番号（一方向で1・2・3・4等）とすることが望ましい。

連続性に関するコメントを追加

付録-3 滑走路のターニングパッドの形状及び標識の例について

ターニングパッドの形状の設定例を以下に示す。

(1) 設定条件

付表-3.1 ターニングパッドの設定条件

項目	条件	備考
対象機材	B787-8	現在の就航機材や就航を予定している機材から最も影響がある機材を設定する。
主脚車輪外縁から舗装端までのクリアランス	4.0m	3.4.2 滑走路ターニングパッドの形状
走行経路	滑走路とターニングパッドの交差角度	30度 3.4.2 滑走路ターニングパッドの形状
	中心線の曲線半径	60m 3.8.3 交差部及び曲線部における誘導路の形状
	旋回前の直線延長	28m ホイールベース長+5m (m単位で切り上げ)
	旋回時の前輪角度	45度 3.4.2 滑走路ターニングパッドの形状

付録-3 滑走路のターニングパッドの形状及び標識の例について

ターニングパッドの形状の設定例を以下に示す。

(1) 設定条件

付表-3.1 ターニングパッドの設定条件

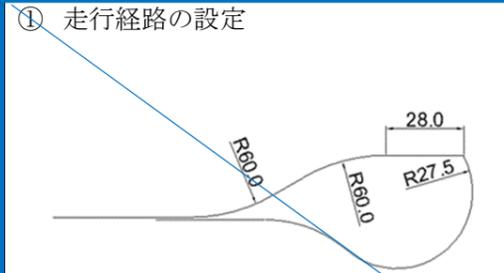
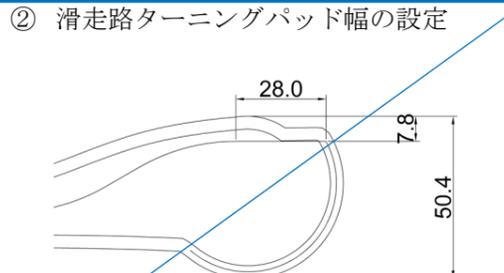
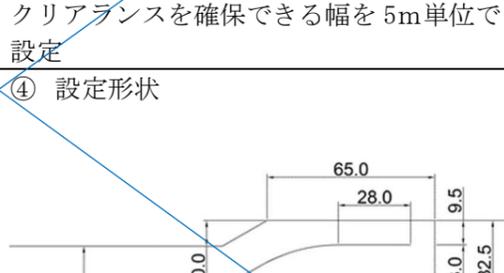
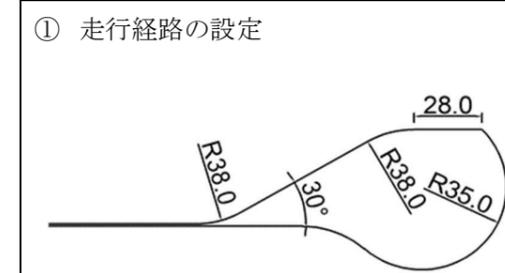
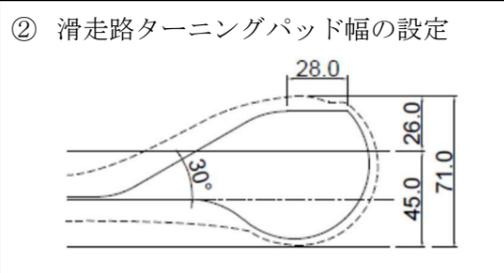
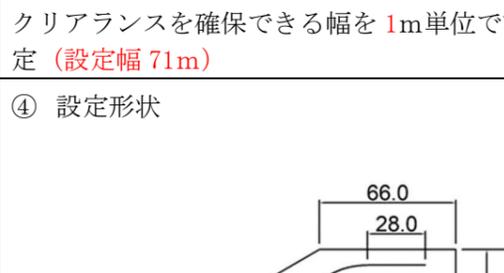
項目	条件	備考
対象機材	B787-8	現在の就航機材や就航を予定している機材から最も影響がある機材を設定する。
主脚車輪外縁から舗装端までのクリアランス	4.0m	3.4.2 滑走路ターニングパッドの形状
走行経路	滑走路とターニングパッドの交差角度	30度 3.4.2 滑走路ターニングパッドの形状
	中心線の曲線半径	38m 3.8.3 交差部及び曲線部における誘導路の形状
	旋回前の直線延長	28m ホイールベース長+5m (m単位で切り上げ)
	旋回時の前輪角度	45度 3.4.2 滑走路ターニングパッドの形状

・令和3年4月改正に伴い修正

現 行

改 正

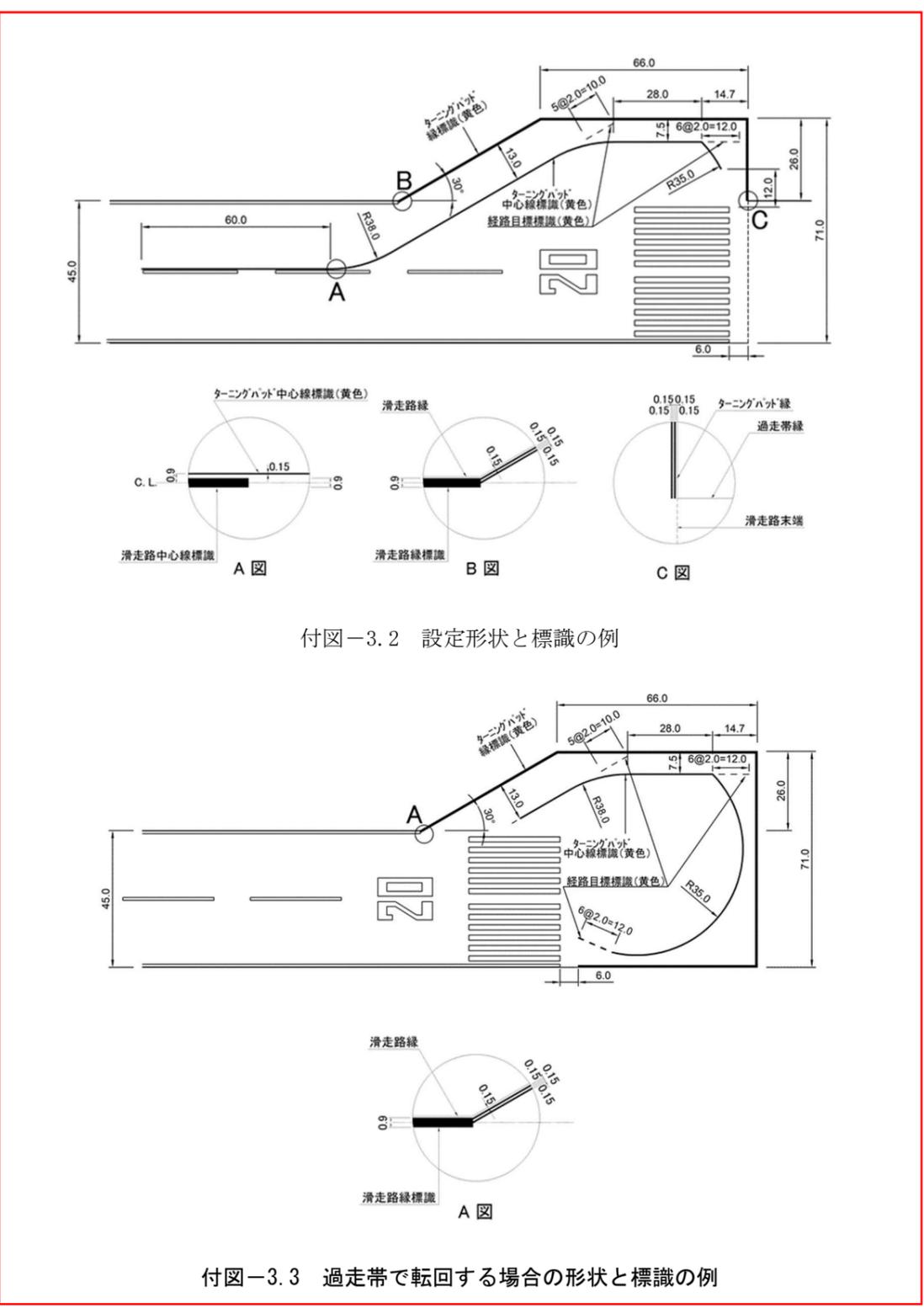
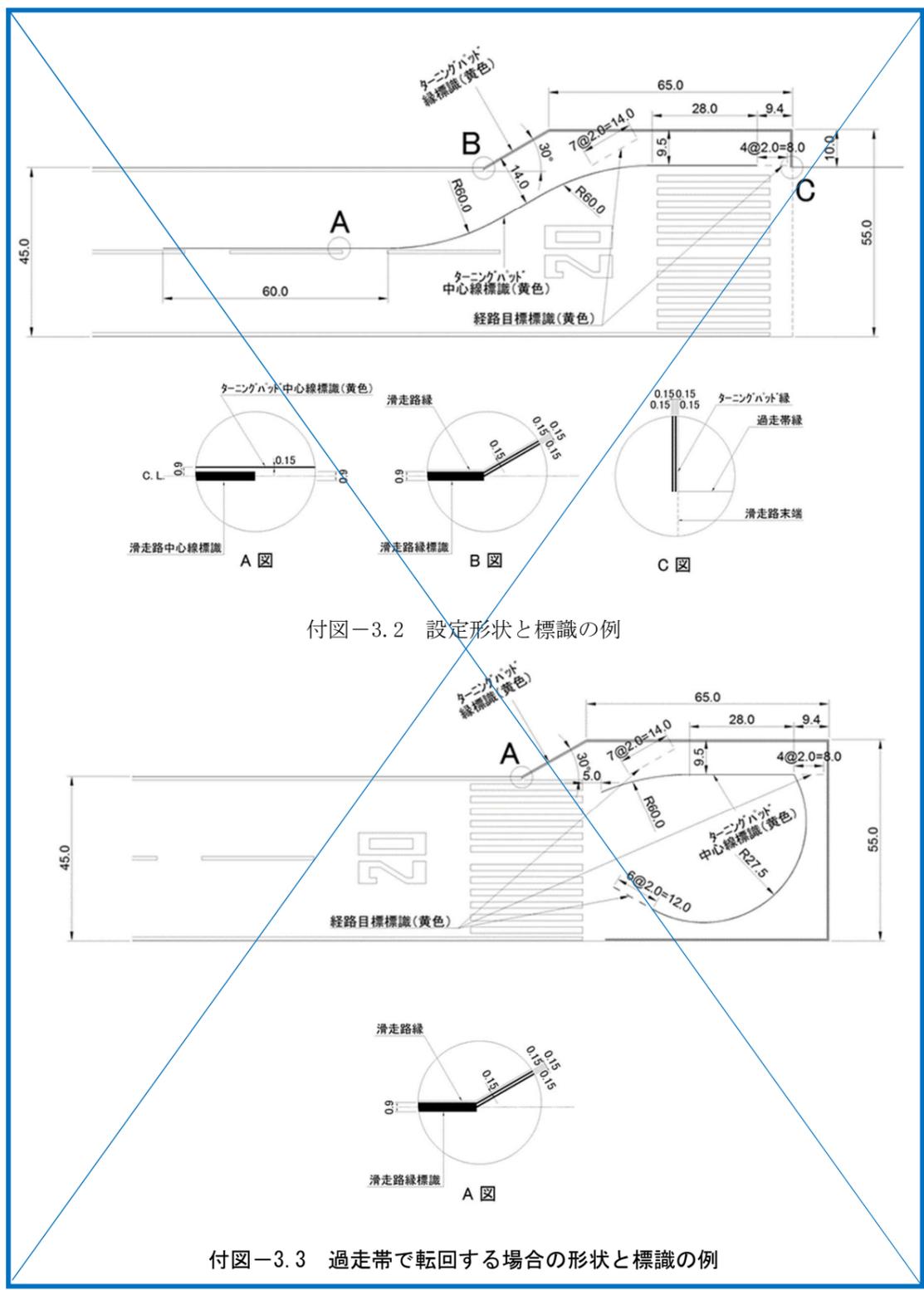
備 考

現 行	改 正	備 考
<p>(2) 設定方法の例</p> <p>① 走行経路の設定  転回時の前輪のステアリング角度 45 度 (回転半径 27.5m)</p> <p>② 滑走路ターニングパッド幅の設定  クリアランスを確保できる幅を 5m 単位で 設定</p> <p>③ 滑走路ターニングパッド長さの設定  クリアランスを確保できる長さを 5m 単位 で設定</p> <p>④ 設定形状 </p> <p>付図-3.1 ターニングパッドの設定手順</p>	<p>(2) 設定方法の例</p> <p>① 走行経路の設定  転回時の前輪のステアリング角度 45 度 (回転半径 35m)</p> <p>② 滑走路ターニングパッド幅の設定  クリアランスを確保できる幅を 1m 単位で設 定 (設定幅 71m)</p> <p>③ 滑走路ターニングパッド長さの設定  クリアランスを確保できる長さを 1m 単 位で設定 (設定長さ 66m)</p> <p>④ 設定形状 </p> <p>付図-3.1 ターニングパッドの設定手順</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回転半径を修正 ・クリアランスを確保できる幅を 1m へ修正 <ul style="list-style-type: none"> ・クリアランスを確保できる幅を 1m 単位へ修正

現 行

改 正

備 考



設定方法の例に伴い修正